

○七管本部長の江口です。

○今月の記者懇談会は、七管区としては初めての試みとして、「リバーウォーク」の一角をお借りしての開催となりました。

○海図150周年を記念して、明日、14日からゼンリンミュージアムで特別展示を開催させて頂くことから、それに先行してのお披露目を兼ねまして、こうしたセッティングになりました。宜しくお願いします。

○海上保安庁は、戦後、昭和23年に米国のコースとガードをモデルに設置された、創設73年の比較的まだ新しい組織であります。その中において海図の作製を含む海洋の科学的調査を担う海洋情報部は、明治4年に設置された明治政府兵部省海軍部の水路局にルーツを持ち、途中運輸省外局の水路部などを経て、昭和23年に新設された海上保安庁に編入、その後、平成14年に組織名を水路部から現在の海洋情報部に変更して今日に至っており、昨日9月12日は、創立150年目の節目の水路記念日でした。

○海上保安庁には、総務部、装備技術部、警備救難部、交通部、そして海洋情報部の5部が置かれていますが、それぞれの部毎に、職員の資質、歴史も異なり、そうした多様性が海上保安庁の強みともなっています。

○本日は、海洋情報部の業務にスポットを当て、業務紹介では「海洋情報業務について」と題して、150年間積み重ねてきた海洋情報部の最新の業務展開状況についてご報告させていただきます。どうかよろしくお願ひします。

○そして本日のプレスリリース事項としましては、お手元の資料にありますように、7月8月の2か月間の夏季安全推進期間中の海難発生状況等の総括と、秋口に向けた海難防止の取組み、そして公開救助訓練の予定等についてご報告させていただきます。

○記者懇談会につきましては、来月10月は、灯台150周年・六連島、部埼、角島灯台の重要文化財指定に関連して交通部の灯台業務にスポットを当て、11月は、警備救難競技大会の公開に併せ開催予定としておりますので、引き続き宜しくお願ひします。

○また、10月に入りますと、舞鶴にあります海上保安学校から昨年10月に入学した学生が1年間の全寮の教育を経て卒業し、全国の現場に赴任して参ります。卒業の履修認定を経て最終確定しますが、今のところ第七管区にも二十数名新人海上保安官が誕生し、巡視船艇に乗り組むこととなります。門司にも数名が赴任予定ですので、新人海上保安官としての奮闘ぶりを含めて取材して頂くと職員の励みにもなりますので、こちらも宜しくお願ひします。

私からは以上です。